

栃木県における森林認証制度の普及と環境保全・地域振興活動

研究組織 代表者：内藤 健司（事業推進協力者：栃木森林認証協議会会長 片見雅俊）

所属・職・氏名：農学部・教授・内藤健司

1. はじめに

栃木森林認証協議会は、「栃木の森林と環境を次世代に引き継ぐための持続可能な森林管理を適正に行いつつ、同時に消費者が満足できる木材を安定提供するために、森林認証制度の普及促進、木材需要の拡大と安定供給を目指し、林業・木材業界全体の活性化を図る事」を目的として2007年11月30日に設立された。

栃木森林認証協議会は、協議会設立以来、栃木県鹿沼地区の民間林業家や木材業関連業者、建築設計・施工業者をはじめとし、大学関係者（学識経験者）や栃木県の林業普及・指導業務に関わる職員らが連携して、機会をとらえて栃木県内において森林認証制度の普及・啓蒙活動を行うと共に、月に一度の例会を開催して会員相互の交流、情報交換、学習会などを行っている。

2. 本事業の目的および計画

本事業の目的は、栃木県における森林認証制度の更なる普及・啓蒙活動をとおして、栃木県の環境保全と地域社会の振興に寄与することである。具体的には「エコ・森フェア」へのブース出展、「森林認証地区座談会in北那須・南那須（鹿沼木工団地組合講堂）」の開催、「第3回森林認証フォーラムin栃木（宇都宮大学）」の開催などとおして、栃木県における森林認証制度の普及・啓蒙活動を推進することである。森林認証制度を普及するためには、木材の生産者である林業家のみならず、木材流通業界、消費者らがこの制度を理解し、価値観を共有することが何よりも大切なことである。

3. 「エコ・森フェア」への参加

平成22年10月9日(土)～10日(日)に「わくわくグランディ科学ランド」において開催された「エコ・森フェア2010」に参加し（ブース出展）、パネ

ル展示や「栃木森林認証検定」を実施して持続可能な森林管理と森林認証制度の普及・啓蒙活動を行った。

今回の目的は、従来の業界向け普及・啓蒙活動



写真1 エコ森フェア会場案内版

から一般消費者に対する普及・啓蒙活動に重点をおいた活動を推進することである。初日は雨模様の天気であったが、当ブースの訪問者は後を絶たず、二日目のフェア終了間際には、準備した450セットの森林認証検定証などは全部なくなる程の盛況であった。今回のエコ・森フェアでは、開催日が週末の祝祭日と重なったため、小・中・高校生などの親子連れの参加者が多く、フォーラムや座談会にはあまり参加しない一般市民（特に次世代を担う多くの若者）の参加を得ることができた（写真1、2、3）。



写真2 栃木森林認証協議会展示風景



写真3 親子連れの訪問者で賑わうブース

森林認証検定ではパネル展示と深く関連した内容の設問が出され、多くの小・中・高校生ばかりでなく同行した両親・家族も含めて、真剣に展示内容を読む姿が見られ、今後の森林認証制度の普及・啓蒙活動の在り方について貴重な示唆を与えてくれた。また今回の活動を通して、林業・木材業界関係者、栃木県環境森林部、学識経験者という産・官・学が連携して一緒に活動する基盤形成にも一定の成果が得られた。

4. 森林認証地区座談会in北那須・南那須の開催

栃木県における森林認証制度の普及は、その活動が県西の鹿沼地区に偏っている事、及びCoC認証と比べてFM認証（注1参照）保有者が少なく、今回の企画の目的は、栃木県北部の林業家や林業事業体への森林認証（FM認証）制度の普及・啓蒙である。

平成22年11月12日(金)に鹿沼木工団地組合講堂にて開催された「北那須・南那須地区林業振興協会合同研修会」において、栃木森林認証協議会による森林認証制度に関する講演と座談会を企画し、講演後の座談会をとおして栃木県北部における森林組合およびその組合員に対して、森林認証制度の普及・啓蒙活動を行った（写真4、5、6）。

注1：森林認証制度は適切に管理された森林とそこから生産された木材を認証（証明）する制度であり、木材や木材加工品にラベリングすることによって消費者が認証材を選別的に購入することを

保証する制度である。森林認証には、FM認証とCoC認証があり、FM認証とは林業家による持続可能な森林の管理を認証するもので、CoC認証とはFM認証材を非認証材と分別管理して流通・加工させている事の認証である。FM認証とCoC認証が結びついて、初めて消費者は認証材を選別的に購入・利用することが可能となり、認証材を使用することを通して、間接的に消費者も森林資源や自然環境の保全に貢献できるのである。



写真4 森林認証地区座談会



写真5 研修会における講演スライドの一部



写真6 北那須・南那須地区林業振興協会合同研修会への参加者

研修会には栃木県北部の林業地帯の那須森林組合や南那須森林組合などから多くの組合員が貸し切りバスで参加し、森林認証制度への取り組みに興味を示す若い組合員や年配の組合長もいた。昨年実施した県南地区での座談会に引き続いて今回の県北地区における座談会は川上側の林業家や林業事業体に森林認証制度の理解を深めさせる上で大きな礎となった。

5 「第3回森林認証フォーラムin栃木」の開催

本フォーラムは当協議会の森林認証制度普及・啓蒙活動の一年の締めくくりとなる催しである。その目的は、県央地区を主体とし、栃木県内の林業・木材業界関係者、一般市民、学生に対して森林認証制度の普及・啓蒙活動を推進することである。

宇都宮大学および栃木県内の林業・木材業界関連団体の後援・協力のもとに、平成22年12月10日(金)午後1時より宇都宮大学学生会館多目的ホールを会場として第3回森林認証フォーラムin栃木を開催した(写真7～20)。以下に「鹿沼地区林業振興協会だよりNo.47」からその概要を引用する。

「当日は県内外の林業・木材産業関係者を中心に大勢の方が参加し、森林認証制度の普及による地域林業木材産業の活性化を目的とした「森林管理のあるべき姿」と題した宇都宮大学農学部内藤健司教授による基調講演、さらに「日本版森林認証制度の必要性和設立の思い出」と題した大日本山林会小林富士雄名誉会長による基調講演と豪華な講演が続き、今年もコメンテーターとして大日本山林会箕輪光博副会長をお招きしてパネルディスカッションが行われ、山田寿夫SGEC専務理事、佐藤基明栃木県環境森林部林業振興課長、齋藤正振興協会長もパネラーとして参加し林業の現状、今後の取組みについて熱い討議を繰り広げました。会場からも質問、意見が飛び交い大変有意義なフォーラムになったと思います。今後当地区における林業経営の方向性や経営ツールとして

の森林認証の可能性について考える良い機会になったのではないのでしょうか。」(出典：鹿沼地区林業振興協会だより、第47号、平成23年2月17日発行)



写真7 勢揃いした栃木森林認証協議会メンバー



写真8 森林認証フォーラム受付(宇都宮大学)



写真9 会場前のポスター展示風景(宇都宮大学)



写真10 来賓の茅野宇都宮大学農学部長ら



写真11 来賓挨拶（栃木県木協連山口武夫理事長）



写真12 基調講演スライド（内藤健司教授）

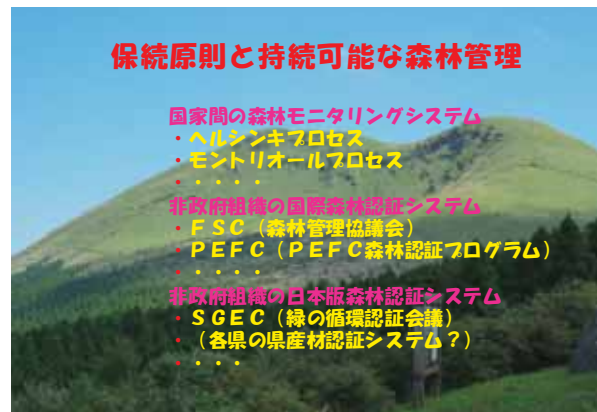


写真14 様々な持続可能な森林管理システム



写真13 小林富士雄大日本山林会名誉会長

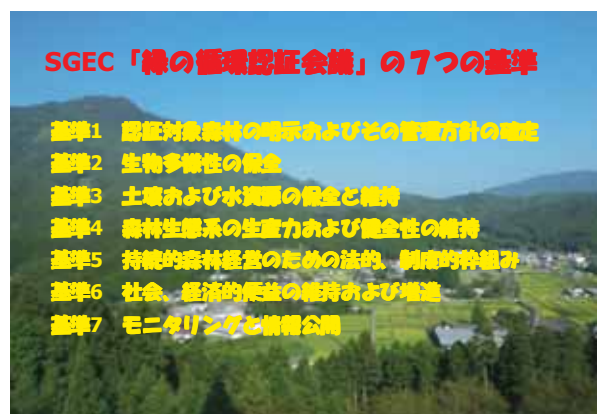


写真15 緑の循環認証会議（SGEC）の認証基準



写真16 各業界からのパネラー達



写真19 林業・製材業・木材加工業界のパネラー



写真17 山田寿夫SGEC専務理事と佐藤基明
栃木県環境林務部林業振興課長



写真20 発言する参会者



写真18 パネルディスカッション風景